IAUD vol.9 Newsletter

2017.2 No. 10



IAUD Newsletter vol.9 第 10 号(2017 年 2 月号)

1

- 2. 「第 15 回初級 講習会&検定試験」「第 9 回中級 検定試験」開催のご案内・・・・・・・9
- 3. IAUD 2 月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10



だれもが楽しく共用できる「Society for All」の実現に向けて

「IAUD アウォード 2016」受賞紹介①: 大賞受賞 2 件の取り組み

IAUD アウォード 2016 は国内外から 59 件のエントリーがあり、IAUD アウォード 2016 審査委員会による厳正且つ公正な審査の結果、「大賞」2件、「金賞」7件、「銀賞」12件のほか、UD において一定の基準を満たしたものに対して「IAUD アウォード」34 件を選定しました。

受賞結果は、2016 年 12 月 9 日(金)に名 古屋国際会議場(愛知県・名古屋市)で開催 された「第6回国際 UD 会議 2016 in 名古屋」 での「IAUD アウォード 2016 表彰式/プレゼン テーション」において発表され、受賞者には清



IAUD アウォード 2016 表彰式の様子

水隆明実行委員長より表彰状が授与され、また大賞と金賞受賞者によるプレゼンデーションも 行われました。

審査委員長のロジャー・コールマン氏(英国王立芸術大学院名誉教授)は今回の感想として、「今年のエントリーは目標がより包摂的になり、優れたデザインとして UD の認識が高まり、「Society for All(みんなのための社会)」が標準となる方向性を示している、と立証しています。それは、敬愛する故寛仁親王殿下が約 15 年前の IAUD 創設時に第一に目指された目標であり、以来、その目標に向かって努力している私たち全員にとって、この目標実現を目の当たりにすることは大きな喜びです」と話しています。



また、初めて最終審査に総裁の瑶子女王殿下にご臨席賜ったことについて コールマンは、「選考プロセスや各エントリーの協議にもご参加賜り、審査委員は女王殿 審査委員長下の強いご関心と貢献を大いに歓迎し、今後のご支援と貴重な助言に期待しています」と述べました。

Newsletterでは、今号より大賞と金賞の受賞内容を順次ご紹介します。第1回目は大賞を受賞した2点の取り組みです。

※IAUD アウォード 2016 受賞結果はこちらをご覧ください。

https://www.iaud.net/award/8109/

※IAUD アウォード 2016 審査講評はこちらをご覧ください。

https://www.iaud.net/award/8077/



誰もが公平、安心、安全にソフトウェアを使える豊かな社会へ

コミュニケーションデザイン部門大賞: FUJITSU GUI Next Plus (FGNP) 「誰もが公平にソフトウェアを使える社会に向けた新しい GUI デザイン基盤」 富士通株式会社

今回は 2 点を「大賞」として選定し、「共同大賞(ジョイント・グランド・アウォード)」を授与することになりました。まずは、コミュニケーションデザイン部門大賞を受賞した富士通株式会社の取り組み「FUJITSU GUI Next Plus (FGNP)『誰もが公平にソフトウェアを使える社会に向けた新しい GUI デザイン基盤』」です。

コールマン審査委員長は「情報提示のプラットフォーム全体の整合性やインターフェイスデザインの整合性は、重要ながらほとんど無視されている問題です。

同社は、デバイスやソフトウェア・プログラムの基本要素、プレゼンテーション、インタラクションを標準化してこの問題を基本的レベルで解決することを目指し、UD の精神に則った整合性を最優先しました。この新しい GUI(グラフィック・ユーザー・インタフェース)デザインは完全な整合性とアクセシビリティへとつながる重要かつ不可欠な一歩であり、業務管理ソフトウェアに新基準を導入するものです。

ソフトウェアとインターフェイスデザインの発展に伴うユーザーの視点から、本当に必要な整合性とアクセシビリティを優先する幕開けと考えています」と、高く評価しました。

受賞した富士通デザイン株式会社の久野大光氏に、取り組みを紹介していただきます。

ソフトウェアに対して UD の配慮が重要

スマートデバイスの普及や ICT(情報通信技術) の進展により、業務のデジタル化が進み、ICT の利活用場面は増え、人々の働き方も変わってきています。そのため、業務で扱うソフトウェアに対して UD の配慮が重要になってきています。

さらに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けては、情報システムのグローバル対応や安全性・安定性がますます重要です。

富士通は、ソフトウェア全体の品質を高めることで、社会全体におけるシステム・インフラの発展や安定性を高め、同様に、誰もが公平、安心、



安全にソフトウェアを使える豊かな社会の実現を目指しています。

FGNP で操作性、業務効率、モチベーションが向上

FUJITSU GUI Next Plus(FGNP)とは、より多くの人が使え、多様な働き方に対応でき、異なる国の人にも使える業務向けソフトウェアを開発するための、開発者向けの GUI デザイン基盤です。

富士通では、FGNP を活用し利活用価値の高いソフトウェアを提供することで、より多くの人に対してユーザーの操作性が向上し、業務効率が高まり、さらに業務に対するモチベーションを高めることを目指し、2013 年から FGNP の開発を行い、既に国内外様々な業種の製品・サーヴィスへの展開を行っています。



ユーザーの業務を支えるポイント

FGNP の 3 つのレイヤー コンセプト、デザイン、デベロップ

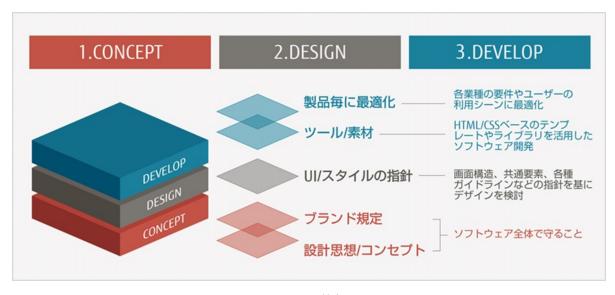
FGNP は大きく3 つのレイヤーで構成されています。

まず1つ目は、どのソフトウェアでも守るべきコンセプトや設計思想です。

2 つ目は、画面構造や UI、スタイルなど GUI を構成する、また一貫性を保つための各種ガイドラインです。 そのガイドラインを基にデザインを検討します。

3 つ目は、それらを具現化するために必要な HTML/CSS のテンプレート集やライブラリなどのツールで、製品毎に最適化(デベロップ)します。

富士通は、多種多様な業種のソフトウェアをグローバルに提供しています。多様なユーザーの利用シーンやユーザビリティ、アクセシビリティへの配慮、様々な業種の目的に合わせたカスタマイズ性が重要であり、FGNP はそれらに柔軟に対応することができます。



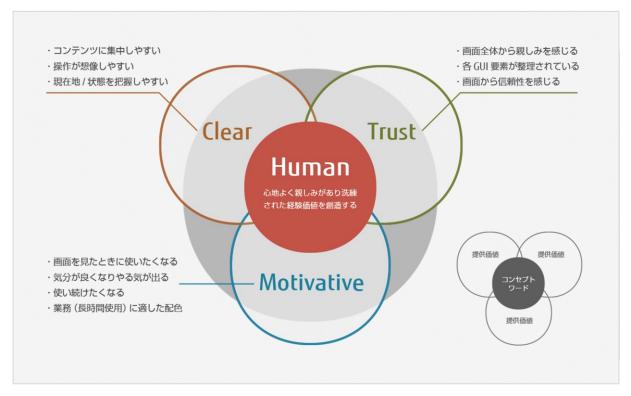
FGNP の仕組み

体験を重視したコンセプト

FGNP の根底にあるコンセプトでは、機能・性能などの使いやすさはもちろん、美しさや心地よさ、使い続けたくなるといった体験を重視しています。

このコンセプトを体現し、ユーザーの期待を上回る体験価値を提供し続けていくことで、社会 全体のシステム・インフラの発展や安定性を高めることへ直結します。

FUJITSU GUI Next Plus の「Plus」の部分には、体験価値を追求していくことの意味が込められています

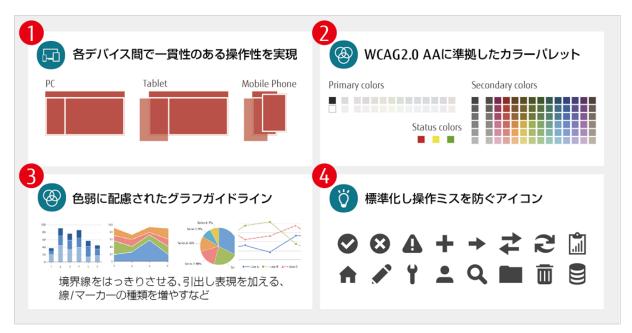


FGNP のコンセプト

使いやすさへのこだわり

異なるデバイスで一貫した操作性の実現、すべてのソフトウェアに共通する見やすい配色への配慮、アイコンの標準化による操作ミスの軽減、また毎日業務で長時間扱うソフトウェアとして、ユーザーは何を期待するのか、ということに徹底的にこだわり、アジア圏 4ヶ国、ヨーロッパ圏 3ヶ国での外部ユーザー評価、ヒアリングを繰り返しながら FGNP が創られてきました。以下はその一例です。

- ① 各デバイスにおける画面の基本構造とエリア分けを定義し、一貫性のある操作性を実現
- ② アクセシビリティ(WCAG2.0 AA)に準拠し、長い操作でも疲れにくい独自のカラーパレット
- ③ 色弱に配慮(色のみの識別に頼らない)されたグラフのガイドライン
- ④ 業務向けソフトウェアで使用頻度が高いアイコンを標準化し、操作ミスを防ぐ



使いやすさを高めるポイント

誰もが使いやすいユーザー体験を実現

FGNP に基づき GUI 開発を行うことで、業務における様々な利用シーンで誰もが使いやすいユーザー体験を実現することができます。

- ・ 長時間操作に適した配色で疲れにくい
- 重要なコンテンツが分かりやすい
- ・ 騒音がある環境でも集中しやすい
- 日差しが強い状況でも見やすい
- ・ 片手操作でも使いやすい
- ・ PC、タブレットで一貫性があり、年齢を問わず使いやすい



様々な利用シーンで誰もが使いやすいユーザー体験を実現

幸せにつながる UX(ユーザーエクスペリエンス)の追求

FGNP を活用した製品が国内、グローバル含め、様々な業種のソフトウェアへの展開が拡大しており、多様なユーザーや世界中の社会システムを支えています。

また、FGNP を使った製品に対し、お客様から「見やすく、直観的な操作ができる」「業務のモチベーションが上がった」「作業効率が高まった」などのご意見をいただいています。

これからも、ユーザーからの評価・フィードバックをいただきながら FGNP を進化させ、誰もが公平、安心、安全にソフトウェアを使うことができ、活き活きと暮らせる豊かな社会の実現を目指していきたいと考えています。



FGNP を活用した製品の利用シーン



世界で最も利用しやすいリゾートセンター

公共空間部門大賞:多目的ホールと24室の新空間で多様性に新たな基準を設ける「ムスホルム・ホリデー・スポーツ・コンファレンス・センター(ムスホルムリゾート)」 デンマーク筋ジストロフィー財団/ムスホルム・ホリデー・スポーツ・コンファレンス

2 つ目の大賞は、デンマーク筋ジストロフィー財団及びムスホルム・ホリデー・スポーツ・コンファレンスによる取り組み「多目的ホールと 24 室の新空間で多様性に新たな基準を設ける『ムスホルム・ホリデー・スポーツ・コンファレンス・センター(ムスホルムリゾート)』」です。

コールマン審査委員長は、「豊かな素材や仕上がり、色彩を用いた高いレクリエーション機能と、水辺のアウトドアやプライベート・スペースを組み合わせ、筋ジストロフィー患者が家族や友人、一般の人々と一緒に楽しめる豊かでくつろいだ体験を提供しています。

同財団は、模範的な参加型デザインプロセスを取り入れ、環境への迅速な対応と体験の満喫を融合し、レクレーションの提示に多様性のある新たな基準を設けています。

対象コミュニティのためのレクリエーションセンターの開発が主目的であったことを意識しつ つ、真の共生の精神を持ち、かつ参加型デザインプロセスの導入を目指し、万人ためのリゾートセンターを実現しています」と、高く評価しました。

受賞した同財団の Gitte Dreier Jacobsen 氏に、取り組み内容を紹介していただきます。

誰もが活動的な休暇を楽しめるために

デンマークのシェラン島西岸に位置するコアセー市にあるムスホルム・ホリデー・スポーツ・コンファレンス・センター(以下、ムスホルムリゾート)は、生活状況に関係なく誰もが楽しめる、より良い居住空間を作り上げるための新しい基準を提示しています。

多様性の採用というヴィジョンのもと、同財団は、人々が年齢や身体的制限に関係なく活動的な休暇を過ごせるリゾートセンターが必要であると判断しました。

そして、建築会社 AART アーキテクツとの提携により、ムスホルムリゾートが設立されました。



外観のデザインも美しいムスホルムリゾート

同財団 CEOHenrik Ib Jørgensen 氏は、「私たちはムスホルムを可能性の限界を超える施設にしたかったのです。ムスホルムでは、年齢や身体的制限に関係なく誰もが屋内外で活動することができます。当然ながら、私たちのすべての活動をすべての人が行えるわけではなく、誰もが同じペースで参加できるわけではありませんが、すべての人に挑戦する機会があります」と語っています。

また、「個人レベルでは、より多くの人々が活動に参加するということを意味します。より幅広いレベルでは、ムスホルムには他の施設にヒントを与える施設利便性向上のためのソリューションの実験施設になってほしい、と考えており、長期的には、ムスホルム以外の施設にも多様性を取り入れてほしいと願っています。いずれは、障害のある人もない人も、共に活動に参加できる場所を今よりも容易に見つけられるようになることを願っています」と述べています。

車椅子の建築家

ムスホルムのデザイン案件を落札し、同財団の理念の具体化を手助けしてくれたのは、AART アーキテクツでした。建築家は、どうすれば身体的制限を個人利用客にとっての新たな可能性に変えられるかを身体で体験するため、車椅子に乗りました。その結果、新しい革新的なアイデアが多く生まれました。

「ムスホルムは、美しさ、活動、および利便性 を融合させたまったく新しいコンセプトを生み出 す建築に対する新たな考え方を、多くの点で示 しています。こうした考え方は、将来の建物や都



ムスホルムリゾートでくつろぐ利用者たち

市空間に自然に組み込むことができるでしょう。これは生活状況に関係なく、すべての人々が利益を享受するためです」と、AART アーキテクツの建築家で共同経営者の Anders Tyrrestrup 氏は語っています。

また、「良い例として、同施設の多目的ホールを取り囲むらせん状のスロープが挙げられます。組み込み型のデッキが備え付けられており、さまざまな活動が可能となっています。このスロープは複数のフロアに及んでおり、利用しやすい建築に関する従来の考え方に異議を唱えるものとなっています。ここでは、誰もが興奮を抱き、通常とは異なるものを見たり行ったりすることができます」と同氏は付け加えています。

人々の多様な要求をデザインに取り入れる

ムスホルムは、異なる機能障害を抱えた人々の多様な要求に応えます。創設者は、利用者 が必要性を感じたときのみ気付くよう、利用しやすい機能を同施設のデザインと建築に取り入 れることを意図しました。

ある種類の障害を抱えた人々を支援する装置が、別の種類の障害を持つ人々の障害となってしまうこともあります。

視覚障害者は、天井の巻き上げ装置に頭をぶつけやすいものです。歩行が困難な人は通常、広いトイレでは安全を感じられず、視覚障害者誘導用ブロックでつまずくかもしれません。

車椅子を使用している人は、案内線が床の上で障害物となってしまうと、手動操作装置を操作できなくなってしまうこともあります。

障害者の健康を増進するために

ムスホルムは、障害を抱えた人々に休暇およびレジャー活動を楽しんでいただくなど、社会経済的目的で税収入を利用している社会的企業です。

ムスホルムの目玉は、会議、コンサート、およびスポーツに利用できる円形の多目的ホールです。

さらに、ムスホルムのねらいは、障害を抱えた 人々の健康を増進することです。多目的ホール



グループでの利用も多い

は、リラクゼーション用の部屋から激しく体を動かすための会場に瞬時に変更することができ、車椅子の人々は車椅子を利用したあらゆる種類のスポーツに参加することができます。

活動エリアには、クライミングウォール、ジップライン遊び用スタジアム、劇場、および注意欠陥障害を抱えた人用のリラクゼーションルームが備わっています。

多目的ホールは、床面から素晴らしい海の眺めが楽しめるスカイラウンジまでをつなぐ長さ 100メートルの車椅子用通路により取り囲まれています。





屋内外で様々なアクティビティを楽しむ子供たち

※ムスホルム・ホリデー・スポーツ・コンファレンス・センター公式サイトは以下をご覧ください。 http://www.musholm.dk/en/meeting-conferences/moedelokaler/

UD 検定

東京開催!オリンピック・パラリンピックのヴォランティアにも役立つ

第 15 回初級 講習会 & 検定試験 第 9 回中級 検定試験のご案内

第 15 回 UD 検定·初級 講習会&検定試験

日時:2月27日(月)12:45~15:45

会場: NEC 本社ビル(東京・芝)

講師: 古瀬 敏氏(静岡文化芸術大学名誉教授) 講習会(2 時間)と UD 検定・初級試験(1 時間・50 問)のセット形式で実施します。

合格後に「UD 検定・初級 認定証」を発行します。 名刺への記載も可能です。

※詳細は以下のリンクを御参照ください。

https://www.iaud.net/ud_certification/8173/



第 14 回初級検定の様子(愛知・名古屋)

第9回 UD 検定·中級 検定試験

日時:2月27日(月)9:30~11:30

会場: NEC 本社ビル(東京・芝)

試験方式:2時間・140問ペーパーテスト。問題は公式テキストブックに準拠して出題します。

合格後は「UD 検定・中級 認定証」を発行します。名刺への記載も可能です。

※詳細は以下のリンクを御参照ください。

https://www.iaud.net/ud_certification/8178/



2017年2月の予定

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7 15:00~ 情報交流センター @IAUD サロン	8	9	10	11	12
13	14 9:30~ UD 検定中級 事前講習会 @コクヨ	15	16	17 10:00~ 住空間 PJ @IAUD サロン	18	19
20	21 15:00~ 運営委員会 @IAUD サロン	22	23 13:30~ 余暇の UDPJ @リコー 14:00~ 衣の UDPJ @IAUD サロン	24	25	26
27 9:30~ UD 検定中級 検定試験 12:45~ UD 検定初級 検定&講習会 @NEC	28 13:20~ 余暇の UDPJ 意見交換会 @筑波大学附属 聴覚特別支援学 校					

無断転載禁止

次号は2017年3月発行予定

特集:「IAUD アウォード 2016」受賞紹介②ほか

IAUD 情報交流センター(IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net